

三浦会長はじめ本部役員、東京支部役員の皆さま、顧問の岡村先生、そして海星青谷会会員の皆さまには、日頃より海星青谷会の活動や学生支援にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

青谷会基金につきましても、多くのご支援をいただいております。この基金は、困窮学生への奨学金、学生購買部の維持、卒業研究に必要な図書の購入、大学祭や部活動の支援など、学生生活を充実させるために活用させていただく予定です。皆さまの温かいご支援に、改めて御礼申し上げます。

現在、本学には4年次生19名が在籍しています。教職員は一人ひとりに寄り添いながら、それぞれが自分らしい進路を見つけ、希望を持って社会へ羽ばたいていけるよう支援しています。そして、この19名の卒業をもって、来年3月末に神戸海星女子学院大学はその長い歴史に幕を下ろします。

この節目にあたり、3月には「感謝の集い」ウィークを開催する予定です。卒業感謝ミサや、懐かしい先生方を囲む会、海星の歴史を振り返る講演会や音楽会などを通して、卒業生や関係者の皆さまが思い出を語り合い、海星で過ごしたかけがえない時間を振り返る機会にしたいと考えています。青谷会の皆さまにもご協力いただきながら、多くの方々にご参加いただけることを願っております。

さて、近年AI技術の急速な発展によって私たちの生活はますます便利になっています。しかし、教皇レオ14世は、その便利さの陰で、人と人とのつながりや対話の大切さを見失ってはならないと語られています。旧約聖書の「バベルの塔」の物語になぞらえながら、効率や成果だけを追い求めることで、人が互いを理解し合う力を失う危険性を指摘されています。

私たちは大きな社会問題を一人で解決することはできません。しかし、自分に与えられた場所で小さな善を積み重ねることはできます。相手の話に耳を傾けること、異なる考え方を尊重すること、世代を超えて経験や知恵を受け継ぐこと。その一つひとつが、より良い社会を築く力になるのだと思います。

また、フランシスコ教皇は「希望は裏切らない」と語られました。希望とは、不安や困難がない状態ではなく、そのような状況の中でも未来を信じて歩み続ける力ではないでしょうか。

神戸海星女子学院大学は閉学を迎えますが、海星で育まれた学びや人とのつながりがなくなるわけではありません。これまで受け継がれてきた想いを次の世代へと手渡ししながら、これからも海星を軸とした絆が広がり続けることを願っています。そして、その歩みを支える希望と人とのつながりを、これからも大切にしていきたいと思っています。